

新時代の風俗雑誌

刊奇譚クラブ 定価百円

送料八円

第六号発売中

第七巻第六号

断然、他の追随を許さぬ六月号の威容

他に類例のない異色ある編集、古今

東西に亘つた豊富な内容、前衛的風格

を持つた日本唯一の風俗雑誌奇譚クラ

ブは真摯な編集陣の努力と熱狂的な愛

読者の支持とよつて此処に齡七年を

迎え、今や確固不動の揺がざる基盤を

作り上げました。

月を重ねるに従つて直接予約購読会

員は激増の一途を辿り、又特別会員の

募集に際しては予定の申込用紙が忽ち

出盡してしまう盛況にて読者による読

者のための雑誌という本来の目的に向

つて勇敢に進歩することが出来るよう

になりました。今後は号を追うて益々

充実発展して皆様の御期待に副いたい

と思ひます。何卒更に一層の御支援と

御鞭撻を御願ひ致します。

奇譚クラブの旧号在庫

バックナンバーは左記の通り在庫し

ていますから廿七年の分は一部送共九
十円、廿八年の分は一部送共百円にて
急送します。廿七年七月号以前は全部
売却となりました。

八月号 責めと男色特大号

九月号 倒錯の告白特集号

十月号 切支丹迫害史特集号

十一月号 宗教刑罰戦慄面譜

十二月号 惑溺の愉快特集号

新年号 縛つた女を描く

二月号 責めの小説特集号

三月号 東西拷問くらべ

四月号 錯倒の告白特集号

五月号 男性マゾ特集号

◎各月号の詳細目次は最近号に発表し
てありますから御覧下さい。

◎直接予約購読者へは毎月厳重荷造り
の上、書店発売前に発行所より第三

種郵便によつて直送致します

◎書店にてお求めの方は毎号洩れなく
御入手されるため是非最寄り有名書

店へ御予約下さい。

◎KK通信は第四号迄は全部品切、第
五号以下若干残部があります故、送

共切手三十円にてお送り致します。



原稿
募集

読者の告白文、体験談、性歴等を募る

読者の皆様の雑誌である奇譚をより
強く皆様に密着させるため、努めて読

者諸氏の作品を掲載したいと思ひます
ので御遠慮なくドシドシとお寄せ下さ

い。文章の巧拙等は問いません。誌上
匿名は御自由ですし、本名其の他の秘

密は厳守致します。枚数や用紙も問い
ません。掲載の分には薄謝を呈します

◎特別会員の申込が予定より多数に達
しました為申込用紙が品切となりお送

り出来なかつた方々が若干ありました
が最近増刷しましたので八円切手封入

の上御申込下れば早速お送り致します
K通と同送の時は送料不要です。

KK通信 第9号

昭和二十八年六月一日発行（毎月一回一日発行）
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定価 二十円（振替口座大阪三四九五六番）

——（編集部便り）——

最近はおかしい読者から投稿の殺到で
予定していても次号廻しになるのが多

いのだが、本号では先ず「由紀子のお
仕置」が読者からのものとしては近頃

にない新鮮な感じのもの、五月号を見
て直ぐ写真数葉を掲載しても構わない

と言つて送つて来られたが、印刷に間
に合わなかつたのは残念であつた。

クリスチーヌの受難と或るマゾヒト
の手帖からを本号より連載することに

なつた。深火、らぶすれいぶ、とは又
違つた味合で同好者には唯一無二の読

物となる事を確信する。片矢薫氏から
は久方ぶりに時代物を寄せられたが引

續いて傑作を執筆中との予告を頂いて
いる。岡田咲子さんから題名はファン

タジーと訂正があつた。伊藤晴雨氏か
ら其頃を語ると題した玉稿を頂いた。

「らぶ・すれいぶ」は読者の誰よりも
深く体験しているつもりである。それ
丈に、氏が無神経にかゝる造語を使つ
ておられることを遺憾に思う。

書きついでにもう少し悪口を書く
と宝塚三夫氏は「ボクの責め方」の初

回に「アブノマリツクな論議でテレカ
クシするヤボは」と書いています。ア

ブノマリツクと考えて形容詞化して
アブノマリツクとしたのだから、こ

れではこの重役さんは
自動車の運転は出来て

も英語は中学生程度も
分で広告したようなも

のである。こんな事を書くとは或は多く
の読者はそれを潔癖すぎるとして私の

ペダントリーに帰するかも知れない。
然し私は決して語学をてらうのではな

い。むしろ逆に外来語を間違つててら
うことをやめようと言つてゐるに過ぎ

ない。舌足らずな外来語を使わずに皆
の言葉で話し合おう。使うなら既に共

通財となつた用語を選ぼう。言葉が乱
れるとバベルの塔は立たない。

KK通信

昭和28年6月1日発行（毎月1日1回発行）
昭和28年4月17日第3種郵便物認可
発行所 堺局区菅原通4ノ30曙書房
定価一部 20円

第九号

鬼山絢策氏はアブニストという言葉
を使われる。寡聞にして今迄他の人の
使つたのを聞いたことがないから、氏
の新造語であることが、忌憚なくいつて
悪い趣味だと思ふ。クへばさうりシク
らぶ・すれいぶはいすれもマゾヒス
トを扱つてゐるので、これならアブ
ニストと云ふことは不要だ。もし六
人の性友中のおと四人がサディストや
同性愛者などで、それらを一括して異
常性愛者という意味に
使つたのなら、無意味
ではないが、それにし
ても熟していない。ア
ブノマルやアブノ
マリテイをクアブクと略するのは略語
として許せるけれど、アブにN一字つ
けてイズム、イストを附する造語は英
語では許されない。が、そんな文字論
は、そもく末なのであつて、問題は
こういう性現象に対する學術語まがい
の造語をする精神である。マゾヒズム
という言葉があるのに、アルゴリズム
イという新語ができた。メタトロピズ
ムという語も生れた。パッシヴイズム

KK論壇

アブニストという語について

沼

正

三

分で広告したようなも

を心得た慎重な態度をとりたい。サイ
コロジイをもじつてサイノロジイと洒
落のめすような造語と違つて「アブニ

スト」の語を普通名詞としてまじめに
使つておられるし、例えばK通七号「

閑人漫語」のように、心ない他の人に
も普通名詞として使われ始めるのを見

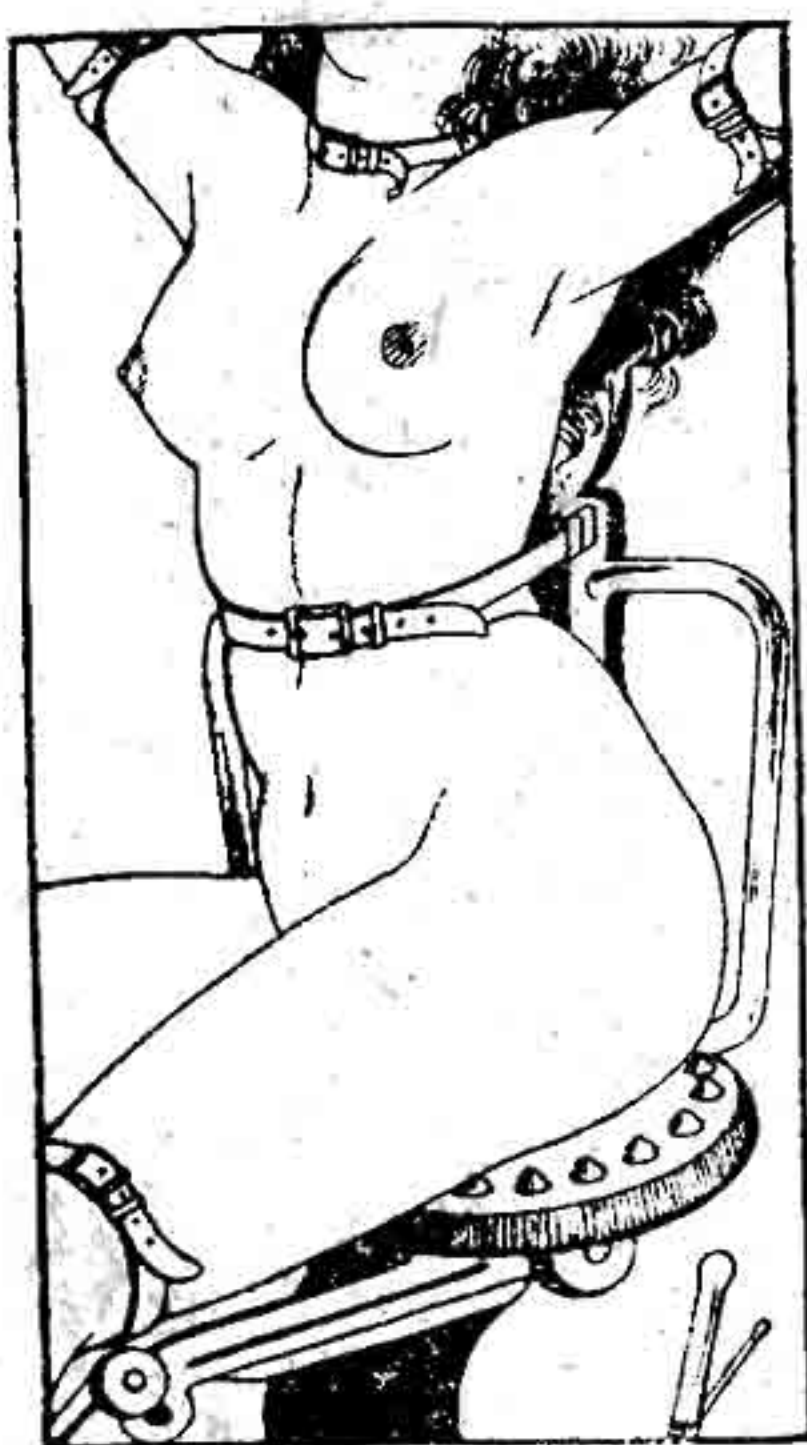
ると黙つていられないのである。私は
作品を通じて鬼山氏を敬愛するもので

ある。私自身も宦官亭主であるためか

「罪の椅子」(三)

飛田 良二

【前奏曲……水中ダンス】



Mは少々疲れて来た。遊び疲れたのである。それにアルコールも適度に廻り初めた。そこで彼は持った縄尻をはなして、かたわらのソファに沈んで腕時計を見た。三時を指して居る。六時には、いよいよ待望の「椅子」が到着の予定であつた。それに、その前にKも四時頃には此処へ来るはずであつた。Kは上海と東京を往復する人買いでMとは、長いつき合いであり、Mの組織する一連のグループの一人なのである。それから、未だある。秘書のS子達が、さがしに行つた新しい獲物も椅子の到着に間に合う様、そろそろ運ばれて来る頃でもあるのだ。「これは忙がしいぞ」Mは心につぶやく。非常に満足した気分なのである。

今、彼が手難した縄尻の先には売られて行くあわれな犠牲者が……一人の若い女が……はすかしい姿で横たわつてゐる。今日で丸々三日をさんさんの変態欲情を満たす為に、もてあそばれて盡したのであつた。

Mはもう一度時間を見た。此の幾人目かの娘をKに引渡す前に、もつともて遊びたかつた。もつと変つた遊びが欲しかつた。が相にくと、待望の椅子は間に合わないのである。もつともMには、そろそろ此の娘には、あきが来て居た、例え椅子が間に合つても、新しい道具である椅子に乗せて見る第一号の獲物は、より素晴らしい新品でなければ気がおさまらないのであつたが……だからもう一遊びしたら、早い処Kに売り飛ばして、Kにもさつさと帰つて欲しい処である。然も手早く、す

るく計算する事も、おこたらない。今日来るKには、新しい獲物も、又出来れば、新しい椅子も見せたくないのがある。まだ彼も見えない新しい犠牲者を、新品を見せては古いのは高く売れない……きつと腕の良い、秘書のS子等の事故必ずMの欲望を充す為に、ビチ／＼した素人娘を運んで来る事はまちがいないのである。

かなり高く、色々な電気装置も準備されているのである。又、一方の壁と、その天井には、一間四方もある大鏡が新たに取付けられ、「罪の椅子」を待つて居た。そして今は、ほとんど素はだか同様の姿に、たゞみに急所を、しめ上げられたあわれな小羊の姿と、ソファ、椅子、それに異様な責め道具、台などが写し出されているのである。「さあ、お嬢さん……縄をといてあげようかね?……どうじゃ少しは、お疲れかね……」

Mは新たな酒で一層怪しくにこつた目で、近づくと懐くつわを、はすしてやつた。そしてその白いあごを、ぐい!ともち上げて、のそきこむのである娘は疲れ切つた体を、もう一度、びく／＼とふるわせる。縄をほどかれる事は決して休けいの意味するのではないからだ。……又新たな、より一層の苦しみが、押しつけられるからであつた。

「もうゆるして……」はげしい、いきづかいの中に、美しい顔が涙にぬれてゐた。その悲しい声音は、遊び疲れたMの、新しい劣情の火を燃やすのに役

で、私は手を伸して安全剃刀の刃の屈く位置を確めた。この便所のキンカクしは汲取口と並行していたので、私は苦勞することなく成功することが判つた。

母親の出た後、暫くして父親が小用に來た。私は娘と勘違いして首を入れて覗き上げると、男便所の父親が下を向いて朝顔に注いでいる最中なのである。私はあわて、首をひつ込めて、次の機会を待った。どうしたことか十二時になつても娘は現れなかつた。この間二度程、ガラス戸が開いたり閉つたりして家人の起きている雰囲気分る私は寒さをこらえ乍ら辛抱して、その時の娘の驚き様を空想して、ひとりほくそ笑んだ。後で判断した処では、娘は母親に見張つて貰い、庭隅で用を足したのであつた。私のひそんでいるのを知つた父親が、心張棒を振りかぶつて私の頭上に迫つたのは、それから間もなくである。私は不図、何か人の氣配を感じて頭を上げた時である。眼をとがらした父親が、

と、打ち下ろした一撃がしたたか私の背骨を打ち据えた。私は思ひかけぬこの場の接迫感に、夢中で逃げ出した私はズツク靴だったし、学校時代競技部員だったので駆け足には自信があつた。父親は棒を振りかぶつた儘、どこまでも追つて來た。一軒も走つた頃、自転車の男が強い光りを投げて眼の前をやつて來た。父親は、この男に、「泥棒だ、捕まえて呉れ」と応援を求めた。男はペタルを踏み直して私に迫つた。私は今迄の余猶を失つて、今度は懸命に力走した。広い道路は街灯が明るく、姿も分るし、かくれ場所もない。私は狭い露路くを探して逃げ廻つた。執拗な自転車はどこまでも追いかけて来る。私は汗みどろになつて頭がぼうつとするのを堪え乍ら死物狂いで馳けた。そのうち、追手は三人、五人とふえ――

堀之内町に逃げ込んだ時には十人近い人が獲物を持つて騒ぎ立て乍ら追つて來ていた。私は決心して一か八か、見沼用水の土橋から飛び込んで泳ぎ出した。十二月の寒中である。凍るよう

【5】
この頃の家の建築から、便所の汲取口は、旧式の板の蓋からコンクリートに代り、最近ではマンホウル式になつたので以前のようにこの口から覗くと

(以下次号)

サデイスの懺悔より

續 錯乱の倫理

(其ノ三)

近東規矩也

父はいつも帰りが遅いこと、土曜日は絶対に帰宅なく、兄弟は土曜日の晩は麻雀か映画で十時過ぎでないと帰らぬこと、榮子は四畳半の自分の居間で大抵読書か編物に時を過していること等であつた。私は洗濯泥棒と共に便所覗きを始めたのである。

その夜榮子は寝る迄に三回便所に行き、小便を一度、大便を一度、用を足した。私は何の気なしに、勢よく音を立て、排泄している様子に以前、浜子の小便責めの拷問に掛けたことを想い出して、汲取口の板を外して、そこに踏み込んで内側を覗いて見た。その時は小便だけだったので、私が首をつゝ込んだ時には紙が舞つて来て、もう立上つた娘は扉を排して出てゆく処であつた。私は次の機会を狙うことにし、

便所に踏み込んでいる内に、母と榮子は間もなく風呂に出掛けた。附近のM湯に入つた。M湯の女湯は川沿いなので石炭倉の木戸からもぐり込んだ。母は白いネルの腰巻、娘の榮子は白いズロオスだつた。いゝ恰好の乳房がゆさ／＼揺れていた。帰宅してからは寝る前に一度便所に来た。

翌晩は屏からの曇り空で、案の通り菅家も腰巻、ズロオス、シユミイス、靴下、パンツ、シャツ等が二段の竿に一杯乾してあつた。私は一枚のズロオスを盗つて、それを穿いて目的を達したのである。総てこのように私のズロオスはいぢ／＼細かに調べ上げた上で十分な確認の下に入手したものである。其後、娘の榮子の便所へ入つたのを数度覗いてみたが冬の始めに、充分見盡

した頃、お別れの挨拶をして次に移ることにしたのである。それは棒切れや竹の細いので、汲取口から狙い突きをするのである。生命に関らぬよう、僅かの傷を付けて、娘の泣き叫ぶのをきいて悦びに浸るのである。榮子は、突かれた瞬間、

「ひやあー」

と云う叫び声で飛び出すと

「お母さまアーわあッ」

と泣き出してしまつた。驚きと痛みで衝動が一緒に神経を刺戟したものであろう。私は急いで裏から逃げ出した。兄弟が門を開けて何か声立に叫び乍ら駆け出して来た。私は夢中で逃げた。こうして私の目的は一つ一つ達せられたのである。勿論その夜も榮子のズロオスを穿いて行くことは忘れなかつた。こうして私のズロオス泥棒と浴場覗きと、便所覗きは常に並行して行われたのである。

東京の上野下谷一帯を荒し廻つた私は、そろ／＼危険を感じて来たので場所を地理にくわしい大宮に変えて仕事に掛つた。大宮は桜木町、大門、高鼻

堀之内と各町に亘つて活躍した。一度すんでの処で捕まるようなスリルを味つたことがあるので、それを述べてみることにする。

【4】

二十三年の冬だつた。氷川神社の参道を下つた与野町との境あたりは畑が一面で家の灯は割に少い。私は畑に近い戸建を狙い居間から若い人妻と、妹と主人と、の三人暮しであるのを見定めておいたのだ、その夜は霜の降りた厳しい寒さであつたが、ズロオスと新しい桃色の腰巻を手に入れて、百米程離れた商店の便所を目的にして予定の行動に入つた。前の晩雜貨商の娘が入浴に出たのを見て置いたので、娘の用便を狙うことにして、私は畑側の便所の汲取口の蓋を除くと、そこに先刻の腰巻を敷き、ズボンと脱いで、生乾きのズロオスを穿くと、右腕をまくり上げて機会を待つていた。

十一時近くになつて、母親が小便に来た、便器のふちにべつたり尻をつけるようにして用を足して母親によつ

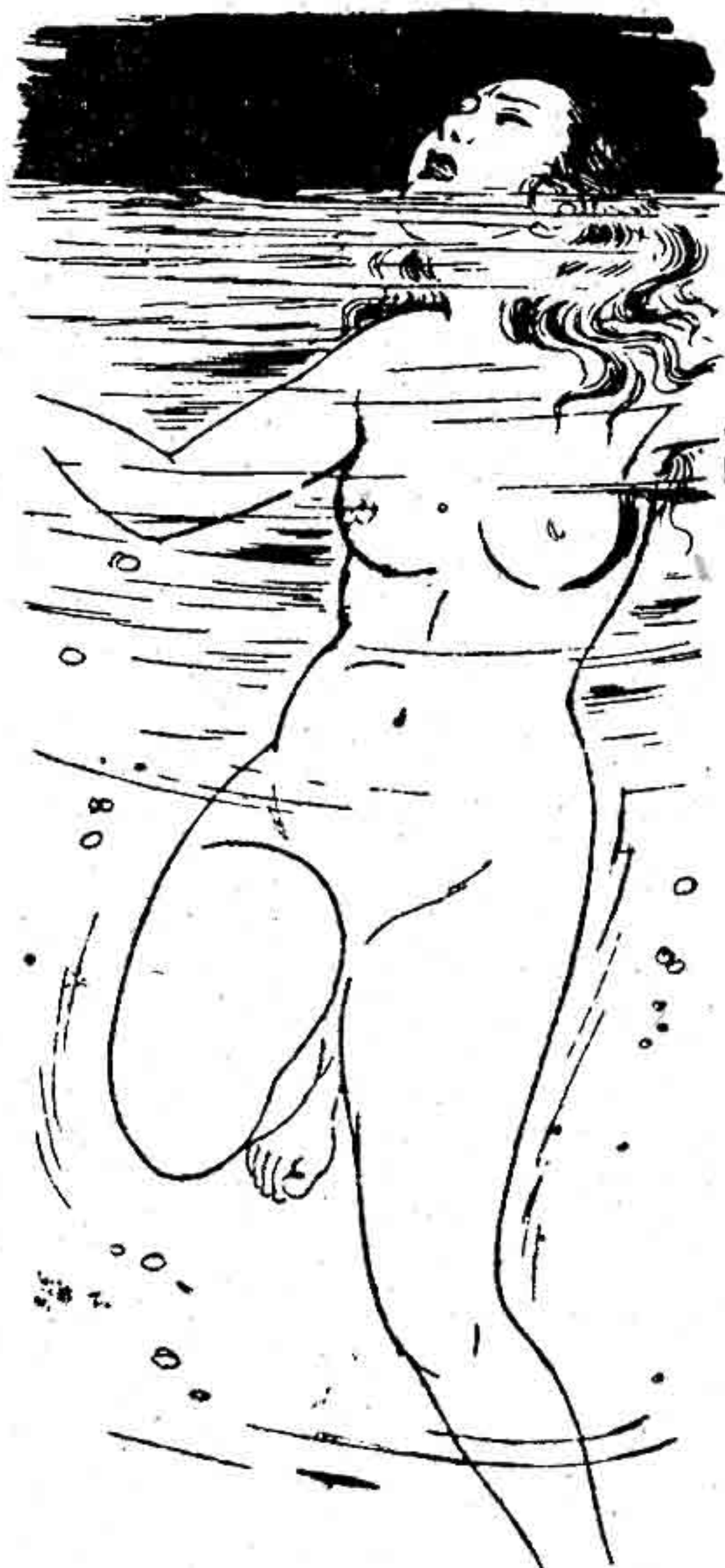
立つただけであつた。

「ウフ……あゝよし／＼、いゝお嬢さんだ、今日で、さあ約束通り、この部屋から開放してあげるよ……」

一瞬、娘の顔に希望の色が浮かんだが、すぐ次の言葉は一層の絶望に追いやつてしまつた。「処でもう一時間のしんばうじやよ……もう一度、水中ダンスを饒せて戴くかね……」

Mは、うれしそうにつぶやくと、立ち上つた。美しい顔立ち、そして白い四肢、若々しい娘も、やはり何処の誰れとも、Mにも解らないまゝ、自動車と麻酔を用意してさがし廻るMの手先に掛かり、絶望の中に沈んで行く運命……、紳士の仮面をかぶり演劇団体を持つMのハイド……。

一方の壁を押し、Mは巨大なガラス張りの水槽を引きだして来たのである。水槽はタテに長く九尺程もあるが横は、わずか四尺四方程で鉄製の枠に厚いガラスが四方にはめ込まれていた。Mはもかく娘を籠のまゝ高い台の上まで、かついで上ると、若干、手こずりながらも、ついに縄をとくと水槽の中



に落ち込んで、ピツタリとフタをしてしまつた。

娘は自由になつた、素はだかの体を悲しく底にかゝめた姿は、ちようど、昆虫ビンに、入れられた白い蝶の様に見えた。

「さあー今日は少し冷してあげようかね……」Mは上部に取付けられたホースの蛇口を開いた。ほとぼしり出る水の冷さ／＼娘は夢中で起き上ると、水槽のガラスに、わずかに、その一部をかくして、はりついた。押し付けられてゆがんだ顔、そして乳ぶさの形は、いたくMを満足させた。何処にもすがる処もない、ガラスビンの中に冷たい水は急速にそ／＼がれ、早や、ひざまで上つ

て来た。腰まで、そして乳ぶさも……

次は背のびして、あごを上げねばならない……。白い蝶が人魚になるのは時間が掛らなかつた。ゆれる上体を保つため、とう／＼娘は両手を左右に泳がせる。此処で一度水を止めたMは動かない水中の人魚の充分のび切つた体をゆつくり眺めるのである。Mはワイスキーのびんと椅子を水槽の処へ運びかけた時、室のすみで電話のベルが鳴り出した。

「いよく椅子が着いたのか？……それとも獲物が運ばれて来た報せか？」Mは受話器を取り上げる前に又、蛇口をゆるめた。ついに水中ダンスが始まる。Mは眺めながら新しい愉しみの

報告を耳にしようと思つたのである。

ついに全身、頭の先まで水の中にかつてしまふ……呼吸をする為白い人魚はビヨン／＼と底をけつて浮び上るか？それでなければ、せまい水槽の中では、夢中になつて立泳ぎしなければならぬ……。

ガラスの壁を決死の両手がする／＼すべる、水中で軽くなつた体でも一番さ／＼えるに力が入れられない大きさをMは計算してあるので。たつた一つ角と角に四肢を全身の力で張れば顔だけ水面に出して、しばらく止どまる事が出来る。それでも、ちよつとでも力を抜けば／＼と沈む。ガラスに何をぬりつけてあるのか？両手足を二ばいに張つた形はつらい。だから娘は、ビヨン／＼と底をける。いよく蓋と水面が近づく。せま／＼と自由に動かせない両手……「かえる」の様に股を開いた白い足が懸命に水をける。Mは受話器を取りに行くのがおそろし／＼に、その太も／＼の運動を顔近づけて眺めるのであつた。(未完)

会友通信

○ 横浜の土山兄

KKのあなたの「自縛の実験報告」を大変興味深く拝読しました。というのは、僕も今迄いろいろ自縛の方法を考えて来たからです。しかし如何に工夫しても自分一人でやる限りは自ら眼界があり本当の緊縛による快感が得られないのを残念に思っていました。

あなたの「実験報告」は方法に多少の差こそあれ、僕の場合と非常によく似ているので驚きました。本当に住所さえ判れば飛んで行きたい位です。二人であらゆる方法で縛りあい、写真など撮つたらどんなにか楽しいでしょう。あなたの体験から編み出された実験報告をもつと度々発表して下さい、心からお待ちしております。

(名古屋T生NO・1686)

会友の諸兄弟と共に、特会の生れた

ことを心から喜ぶものであります。この上はわれわれの熱意によつてより以上の発展を期そうではないですか。黒井珍平氏の言のように、常に或る慾望を抑えようとして努力することは却つてその慾望にとらわれている時なのです。われわれに若し罪悪感や或る種の苦悩があるとすれば「奇ク」や特会によつて心理的な昇華を求めたい、と思います。私は特会が今後ともそのような機関として発展して行くことを希望します。

京都の諸氏よ、何卒よろしく。
(京都・堀本NO・867)

「奇ク」五月号の素晴らしさはどうでしょう。か。「女上位号」との予告で小生、一日千秋の思いで待望して居りましたが、真に期待以上の出来にて大いに嬉んだ次第です。特に沼正三氏の「マゾヒストの会」に至つては従来にな

い感激を覚えました。今後共々企画を数多く御計画下さる様編集部にお願ひ致します。又出来れば、前記「マゾヒストの会」中にありました鞭打證書の特別会員宛への配布を御願ひします。恐らく同好の志は金額を問わずに努力すると思ひます。

(東京・間島生NO・97)

森山美歌様

僕は貴女の崇拜者の一人です。「悩ましのサジズム」及び「ロマンチックなサジズム」を拝見してより、すっかり魅せられ、貴女のトリコとなつてしまいました。特に五月号の中野安太郎氏の手記「奴隷の安の記」を読むに至つて貴女の凄艶さには全く眼がくらみそうです。中野氏への貴女のお手紙の素晴らしさ。「私がお金持であつたら奴隷として飼つてやる」というくだり以下の悩ましき。僕は眼がクラクラするほど昂奮してしまいました。貴女の洗練されたサジズムには、唯もう憧れを捧げる外になすべしをしませ

ん。僕はマゾヒストです。しかも空想的マゾヒスト、そして最も理想なのは精神的に男を虐待出来る婦人を尊びます。貴女の肉体的前に跪拜した僕に言葉の上で精神的に虐待しひどい命令をして頂きたい。どんなにうれしいでしょう(福岡・M・M生NO・1604)

マゾ遍歴二十年。大部分の女性はこのうふうに虐めてほしいのだと虐めてやると、ハア／＼と悶え、また喜ぶくせに、いざ虐めてくれというと、「私出来ないわ」と逃げたり、たゞ形だけ縛つたりでまだ私を満足させてくれないような人に出合いません。最近では奇クを唯一のたのしみとしている状態です。どなたか、私をもう御免という迄思いきり虐めてくれる人はいないでしょうか、遍歴時代の体験はいずれの機会に発表したいと思つています。

(東京のM、NO・1903)

私は小学校をS市で三年生迄過してりました。其の当時私の家は石段を登

【特別会員だより】

特別会員の申込みが遂に二千を突破しかも毎日増加の一途を辿つております。殆んど総ての方々が詳細に各項目に亘つて真面目に記入され、中には欄内だけで記入出来ず附箋をはつて迄追加された位で編集者としては大いに参考となる所がありました。前号で

も申し上げました通り申込書に記入された事項に対する秘密は厳守致します。故、何卒御安心下さい。尚それに関連して寄稿家、執筆者、投稿者の住所氏名についての御照会はお断り致します。と共、今後そういったお問合せには返券封入の如何に拘らず一切御返事差し上げません故御承知お祈いします。

特別会員の申込書を御送付下さつた

方々には六月号或はK通八号に同封して会員証を御送付申し上げておきました。予想外に多くの方々から御申込を頂き申込用紙を品切れさせました為、お送り出来なかつた方や、或は事務上の手違いから御送付出来なかつた方もある事と存じますが、何にしろ通信費を頂いて居りません為、別送致しかねますので便ある毎にお送りしたいと思つて居ります。K通は特別会員の機関誌としての将来の増頁を見越して本号よりB6版と致しました。多数の方々からK通の増頁と内容の充実を要望されて居りますが、会員に無料配布という条件の為にこれ以上の犠牲は到底払ふ余地がありませんのでKK通信第十号からは直接購読者に対する無料贈呈を中止致します故悪しからず御諒承下さい。

◎読者の声ABC◎

読者の声に忠実な反応を誌面に現しているのは天下広しと云ふと本誌の如きはないで

あろうと自信タツプリに広言して憚らない編集者も昨今机上に山積する物凄しい御意見御希望にはいさゝか辟易せざるを得ない。その一部は六月号に一才発表してあるが、中々そんな生やさしいものではない。編集者も人間であるから繰り返さしそいつた同じ傾向の希望が重なる心を動され勝ちであるのはいなめない。自分の好きな傾向で全巻埋めて他の物は一切やめて欲しいという意見には全く参つてしまふ。自分一人で買ひ占めるような気であるのだから助からない。糞尿フェチズムに対する攻撃は特にヒドカッタ。編集者は甘んじてその矢面に立つ覚悟、男色もお嫌いな方が多いようだ。然し営利一辺倒でないからお嫌な方はどうぞおやメ下さいと云いたい。十年後に本誌が文献として価値を持つ事を信じて敢て多くの読者に媚びなかつた。然し真面目な御意見を傾聴する謙虚さは失われないつもりである。どうか今後共忌憚なき意見によつて編集者を鞭撻下さるよう御願ひする。



裸女の祭壇に纏ったくさり

代理部だより



只今分譲中の縛られた女の写真は同好者の間に好評を拍しまして大々人気でございます。KK通信の第八号には内容の概略を発表してあります。

吊し責めの三態や襲われる女等の特選集もございまして、どうか多少に拘らず御申込下さる様お待ち致します。

短信往来

▲第三者読者座談会として「女体の緊縛美に関する読者討論会」開催の予告に対して開催予定地の京都をはじめ阪神は勿論、遠く東海、北陸方面からも熱心な参加希望の会員の申込があり只今十分検討の上詮衡致して居りますから近日中、出席して頂く方には御連絡申し上げる筈です。きつと今迄と違つた活潑な討論会になる事と信じております。

▲五月号の企画に対して賛否がはつきり二つに分れ興味深い対照を示しました。御熱心な御意見は厚く感謝いたしますが、何れにしても特集的な意味を持つた企画でありますから、その月の出来具合によつて一喜一憂されることなく末長く御愛読賜りたいと存じます中には奇巧がこんな編集ぶりなら今後、買つてやらないという脅迫的な言辭もありましたが、それに反して讚美を極めた手紙にも沢山接しました。

▲KK通信が本誌の附録的存在のため

十分発展出来ないのだ、相当高額の購読料をとつて併読誌としての体裁を真えよとの声が壓倒的に多いので目下K通の充実方法について縛つて居りますので追て決定次第お知らせします。

▲モデル募集に際しまして多数の諸兄姉から御問合せ頂き中には献身的に奉仕しようという御申出もあり関係者一同厚く感謝いたして居ります。お蔭さまで今後の誌上を更に百花燦爛と飾ることが出来る楽しみにして居ります。

▲出たり出なかつたりするパンフレット式出版が多い中にK通はとにかくにも第九号を迎えました。とかくの批評はあると思いますが、地味で根強い頑張りを買つてやつて下さい。

▲六月号裏表紙広告のアルバム、全力を挙げて印刷に着手、督促して居りますが製本や装釘にいさゝか時日を要しますので、直ちに発送出来かねるかも知れませんが御申込み下さつた方々には完成次第急送申し上げます故、何卒よろしく御含みおきの程お願い申し上げます。

つた高台にあり、周囲は土塀で圍れていました。その下の方は所謂マツチ箱のような小さな家がゴミ／＼と建ち並んだ所で、こんな所に起り勝ちな世にいう「継子いじめ」を毎日常の者に気付かれない様にそつと抜け出して好奇心にかられ乍ら多くの子供達に混つて見るのが楽しみでした。「お母さん、ごめんさい」という悲鳴が聞えるともういても立つてもいられないのです。その頃から私は「継子いじめ」を見る度に或る興奮を禁じ得ませんでした。その土地を去つてから何か物淋しく思われ、そして現在雑誌によつて慰められて居ります。その点では奇巧は私に最も適した本だつてくづく有難く思つて居ります。

(行燈生)

本誌はサディストの私にとつて不可欠の伴侶です。至る所に展開される妖しくも美しい悦虐の恍惚境に私の生命と情熱は燃え上るのです。しかし又本誌は孤獨な私にとつて悲しみの源泉でもあります。パートナーを持たない嘆き、空しき情慾の呻きに転々反側

し、この血みどろな苦悩を忘却させる為に更に強烈な悪魔的な官能の刺激を求めてデカタンの深みへと落ち込んでゆくのです。読者の方々の中には私と同様な嘆きを喟つて居られる人が他にもあると思うのですが……マゾヒストの女性が現れて、この憐れな男を救つてくれるのはいつの事か、永遠の夢かも知れませんが。それでも私は儼然いイメージを求めて彷徨を続けるでしょう何故なら、それが私の唯一の真実なのですから。

(横浜・杉本生)

黒井珍平氏のアブニスト自動車事故論は同感です。但し「自由な昇華」というのは言葉乃至觀念としては私もその様な生活方法をとりたいと希望しますけれど具体的に何を意味しますか？ 気にしないで自由に欲望を實現し、ノーマルな面もアブノーマルな面も自分には自然なのだと考えて生活してゆくこと？ サジズムは然し刺激を求めて次第に自らも欲しない深みへはまつてゆくものでしょう。それは人間生活の他の面も侵蝕してゆかないでしょうか

特別会員文通規定

- 一、文通の幹旋は本誌特別会員相互間に限つて行います。
- 二、会友通信に掲載御希望の方は通信文に会員番号添記の上御申込下さい。
- 三、会友通信に発表の会員に文通を望まれる方は、切手三十円同封の書信を読者係宛御送付下されば御指定の会員に転送致します。
- 四、書信にはすべて住所氏名を記入せず会員番号によつて下さい。
- 五、通信文は読者係に於て詮衡の上

を集める迄には至りませんが、セクシユアルな経験対象の数を重ねたいという欲望——を否定し得ませんが。

(京都・萩原徹)

私は一昨年の夏からの本誌の読者ですが、最近の貴誌の編集方針は益々洗練されつゝあるのを見て心強く思います。読者通信により貴誌が全国的に多大の愛読者を擁していただけること、換

出来るだけ多く会友通信欄に発表するよう努力致します。

六、返信の転送は読者係宛切手三十円同封の上、相手の会員番号を明記して御送付下されば早速転送の手続きをとります。

七、本規定に寄らない通信は理由の如何に拘らず総て御取次致しかねます故御承知願います。

八、尚、従来本誌の読者サービスとして取扱つて居りました読者間の文通幹旋は此れを機会に一切廃止致します。

九、会友通信は今後漸次充実する考えであります。

言すれば世に Abnormal な性情を持
合せている男女が如何に多いかを知り
今更驚いている次第です。という私も
所謂「美女緊縛」の姿態に少なからぬ
関心を持つ者であり、幼時小講談類
の中で美女が悪漢に襲われるシーン
等一再ならず愛読したものです。長じ
て中等高等学校に学んだ私は學業と運
動の為、潜在意識の底に隠れましたが

思春期に入るに従つて又もや再燃しま
した。
現在在留軍の某病院に通訳として
勤務しながら本年三月新制大学理學部
を卒業しました。本誌を初めて買い求
めて以来、それらが学術書と共に私の
少い時間の大きな慰めとなつたことは
言う迄ありません。
(岡山・多磨生)



☆ 五月号の珍迷評 ☆

一 迷 評 家

五月号は女上位の特集号と予告にあ
つたので昨年七月号の女天下時代の特
集号を想起して大いに期待していたと
ころ予想通り十分満足させられる作品
揃いで嬉しかった。高月大三氏の構成

雨玲子の両氏の作品は後日対照して読
者と共に研究してみたいとある言葉に
寄つて期待を後日にかける。

さて、五月号の中から一応私の心を
揺すぶつた作品をピックアップして例
によつて例の如き珍迷評をお許し願ひ
たい。本号は男性マゾ特集で正直など
ころサド一辺倒の私には物足りない
と女体の責めという観点から、あの挿繪
は一向にピンと来ないものばかりだつ
たと思うのは私一人ではなからう。晴

揺すぶつた作品をピックアップして例
によつて例の如き珍迷評をお許し願ひ
たい。本号は男性マゾ特集で正直など
ころサド一辺倒の私には物足りない
と女体の責めという観点から、あの挿繪
は一向にピンと来ないものばかりだつ
たと思うのは私一人ではなからう。晴

第一番に好きなもの、一つ「私はサデ
イズム」という言葉から、不合理な残酷
や犯罪的な観念を追い出したいと常に
願っている一人です」という一言には
双手を挙げて大賛成。
(一) 僕の記録……此の作者の真面
目さには只々頭が下がります。私の如き
三重人格者が云々する事はいさゝかも
ありません。自己の内面をこゝ迄深く
掘り下げた勇氣には敬意を表します。
(二) 続・硝子便所……こういった
作品に反撥を感じる人は多いでしょう
只そういう私もその中の一人ですが、
最も醜なるものを美しく表現すること
の出来る此の筆者の心に或る親しさをと

ますが、週に一回は大阪へ出て参りま
す。本日の事を申し上げますと私は縛
つて頂きたいのでございます。モデル
募集の活字を見ても胸をワクワクし
て居るのでございます。私のような者
では駄目でございます。どうか、本年満
二十三才で容貌は十人並ですが身体は
中肉で背は少し高い方です。若し使つ
て下さるならどんなに強く縛られても
辛抱致します。只、知り合いも沢山あ
りますので雑誌へ出される時は顔だけ
はかくして頂ければこれに越した事は
ありません。どうかよろしく御返事賜
りますようお願い致します。
(奈良・柿本啓子)

小生「女性の切腹」に特に興味を特
つて居り色々資料を蒐めて居ります。
女腹切に対する記事小説、モデル写真
挿繪等好きです。同時に「女性の刺青」
にも興味あり、いさゝか小生だけの
ものか知りませんが「全身刺青した女
性が切腹している図」等を見ると無上
の恍惚感を覚えてエレクトする程です
但し不思議に男性の切腹には左程の感

中に展開される雰囲気——そこへめぐ
らす自由な想像——これこそ少くとも
私の望んでいたものである。尚ヌード
のみでなく、いろいろの着衣のものを
次第にとり上げてゆかれる事も楽し
みであり非常な喜びでもある。最後にこ
れは希望ですが、もう少し出来る範
圍一杯に顔の苦悶の表情の描写を願
ひたい。(京都I・A生)

より逐次貰いたいのが趣味者の特徴な
のですが、さて集成してみれば同じの
が重複したり撮映角度が違うだけとい
つたものがあり、少し不満です。道具
は大きなものでなくとも身近にある小
道具でいゝと思います。読者の輿論に
依り決して同じ責道具、髪型、衣類等
の組別に提供願ひたいし

(広島S・Y生)

顔面に表情を出すことについて最近
特に苦心して、実際に苦痛を与えその
瞬間をキヤツチするよう、努力して居
ります。(塚本生)

同じものが重複したというのは何か
の間違いと思ひますが、単にカメラア
ングルの違つたという作品については
今後心得ます。読者の輿論に従うとい
うことは必要なことで何らかの形で希
望を募りたいと思ひます。(T生)

五月号の高月大三氏の構成にかゝる
「女の責場の挿繪」は繪の中に現実か
ら離れた繪があり、他誌の読者がこれ
で満足したとすれば言外である。それ
は野晒姫の岩田専太郎氏の繪の手指で
す。亦同じく三谷一馬氏、男の縛られ
た繪の手指で、いくら家族が寝静つて
から実演しても出来ない、此の様な繪
は除外して戴きたい。それから縛られ
た女の写真ですが、蒐集する人は一集

分譲写真の各集のポーズについてK
通第八号に内容を發表して下さつたの
で注文する上に大変便利になりました
出来ればもう一步進めて小型の見本帖
のようなものを番号入りで發表して貰
えれば自分の好みのものが一見して見
別ける事が出来て嬉しいと思ひます。
(山形 辺見生)

調べる事から始まり……
「挟み方が足らん、モットしめ上げん
か!」
と叱りどばし、二人が「ウン」とも
がき喘ぎ乍ら腰と股に力を入れるテ
クニツクの習得から末子を……鈴を……
君江を、遂には多津子をと全部掘め
て終うまでの話。

又、ボクの事務室で居残らした和子
タイプの和子、立子、交換手の相子等
と銀行事務員の美代子を責め立てる集
団的痴戯から和子と二人きりの陶酔、
睦子と二人きりの放逸、新しい多賀子
との熟睡等々。を一時も早く詳細に述
べてほしいだろう……とは百も承知で
あるがものには順序、号を追つて参照
されたい。

では本題の筋に戻つて文彌節の内コ
スチュームの話……。承知の通りボ
クはあらゆる種類の女を責めているが
前述の通り着衣のまゝ、高手小手で引
がした場合のコスチュームとの堪まら
んコントラストの残酷美と女の精神心
理を利用した羞恥心理の責の美、そし
て軽い乍ら慾情をかり立てる、文彌節

と責文句のやりとり……

暫く目を楽しませたあと一先ずその
まゝで臀部と云うか下半身を剥き出す
のが常例である。こゝで一言する事は
いつかの日、何かの本で読んだのが処
女である場合(生娘)部屋が暗い内部
でもその女が真赤に顔を染めるのがわ
かる。

と云う事を一度ならず実見した事を証
明して置く。和子の第一回目然り、春
子、ふみ、美代子、実子、末子皆然り
実に美しい真紅である。全身に及ぶも
のと顔だけのものとある。そうした処
女美を目前にした時はボクささまばゆ
い思いをする事がある。(以下次号)

謹告 K通の贈呈を中

止しました。

次号第十号からKK通信の直接購読
者に対する無料贈呈を中止しました。
従つて次からは本誌の発送の中間を狙
つて別送致します。内容も凸版、写真
版を豊富に入れて充実します。購読御
希望の方は半年分百円(八円切手十三
枚にても可)御送付下さいませ。

この睦子がボクの相手の内出色の珍物であり興味の的であると自負していた処、ごく最近に至つて睦子以上の珍品を手したので急いで諸賢にリポートして置く、名は多賀子(二才)今はそれだけ発表して置く。黒目勝、恐ろしく眸に魅力のある美人、中肉中背ボクの好みより少し細型の脚線美、臀も弄ぶには一寸物足らぬがその性格性情には何十年来の獲物と考えている！以下各人各様のセリフは後章の内に



縛り繪写真に対する意見

近頃の非常に充実した「縛つた女の写真」に対してその喜びを述べたい、篇を追つてより一層見事になつてゆく此の種写真の構成、撮映の裏にある関係者各位のたゆまぬ努力に対しての讃美を惜しまない。ヘロタイプのかげられた美しい写真は愛好家のコレクションとして貴重な物となつています。殊に私が最近購入したもの、中で第八篇

取入れて行く事になる。愈々縄をかけるのであるが最初から裸に剥くのはヤボの骨頂である。ボクは性的女責とコスチュームも尊重……、さてねじ伏せて馬乗りになつて縛りかけるわけであるが……俯伏せにして腰の上に跨がり女の両手を背中へねじ廻す……そこでスクに縄をかけては駄目である。んな女でもその場合、本能的に全身、特に腕には反抗的な力が入つていると同時に息をつめていゝものである

の寝衣二態は素晴らしい。その緊迫度もある事作ら、その背景に置かれた夜具その他によつて、又縛られた女の体位に於いて我々の自由な且つ奔放な想像を逞しゆうさせている所は立派なものであるこれは今迄の単に「縛つた女」を写したものと違い一段と進歩したものと思う。本当に「縛つた女」を中心としてその限られた写真のフレームの

その間はジツとこちらを心を沈めていゝ一分、二分……暫くすると掴んでいゝ手首にも張つた肩先にも一息入れた力の抜けが感じられる、そこで改めてグイツと手首を一段と組合わして背中へねじ上げる。殆んど女の女は無意識的に「イツ！」

と一声あげる、そこで又一息……決して退屈ではない、跨間に受ける女の腰部との接触感亦愉快であるから……一、二分も短かい位である、もう片手掴みにしても女の腕の力は太したものではない。ボツ／＼片手で縛り縄をたぐつてよい時である。これで一息二息次の三息でもかく手首から胸へと一応縄をかけて終るのである。

然しこれは本編ではない。本編は目的の縄(座敷向なら腰紐、庭前向なら細引、風呂向なら麻縄等々と適当に)で、その上から正式に思う通り、気の向いた様に縛り上げて終つてから先刻の仮縄を抜き取るのである。この方法で縛つてゆくとかければかける程みごとな縄目の味が出るので後刻のヌード

の時に大変楽しめるのである。

こゝで初めて馬乗りから身をのけるとボクの所謂「性的女責とコスチューム」の面白さが得られるのである。そこで文彌節の第二回が開けるのである明け暮れヌードの責を見ているとコスチュームの伴つた責のよさが何より楽しい前奏曲である事は諸賢も御存じでしょう。各人各様の服装と職務服装等のまゝ転がした高手小手の女達を足下に見降ろして円卓に、ソファーに、ゆつたりと息を休めて探奇する快感こそ性的女責のインビテーションに非ずして何ぞや……と敢えて云う、例えば二三の例を取つてみると、

或る一部の同好読者にはこんな論議よりも、ボクが食堂レジの「君江」と「多津子」(旅館主)に照子と正子に鈴、末子、六人の責の話、即ちボクが多津子の旅館を借切つて食堂の一連中四人を引込んで連れ責の一日の事であるが、剥玉子で縄のかゝつた照子と正子を君江と鈴の二人に手首の縄目をこじ上げさせてボクの前に引出しボクの二本の指は一人の……縛り方を

人間の暖かさというものを感ずる。

(四) 雌獣の手記……断然気にいりました。二月号の「燐光」に比すべき作品、不逞の欲を云えば、笹子が豹兵に密室で責められる場面はもう少し刻明な描写がほしかつた。或は時節柄編集部に於て削除されたのかも知れないが神様を思つて悪魔に仕える可憐な檻に飼われた雌獣、サディストにとつては垂涎の餌物ですナ、次作を待ちます

(五) 吊られた白鳥……川端さんは身体も美しいが文章もうまい。悦虐のポーズをこゝ迄書けば間然とするところがない。

(六) 盲いたる手……惜しいテーマ素材だけの羅列に終つたのはかえすがえすも残念、江戸川乱歩の「淫獣」以上をゆく題材であつただけに。

(七) 荒縄による緊縛感のスポット、荒縄と柔肌とのリアルな描写、四月号の「後手と高手小手による緊縛美の考察」と共に第一級に押す企画である。

四月号は背面、五月号は前面と心憎いばかりの扱い方であるが、読者が本を開いて先ず第一番に目をやる所は口繪

であるから今後は此の企画を更に一歩押しすすめて部分的なものから被縛者の苦悶の表情迄キヤツチされたらどんなにかよいだろうと思つた。

(八) らぶ・すれいぶ……流暢な文章は益々快調を帯びてきた。一流作家の覆面ではないかと疑わさせられる流麗なタッチで先へ先へと読者を引きずり込んでゆく所、正に鬼才とも言ふべき手腕、「淫火」と共に奇クが世に誇る一大長篇。

(九) 縛られた妻以前……地獄図の描写は傑作、黒部と慶子に責められる所今少し具体的に描写してほしかつた然し、幸子の被虐的な微妙な心理が十分描かれていて残虐に傾かず輕薄に陥らずしかも悩ましく美しい文章であつた。「偽れる殉教者」の該博な所論、上海の思い出から「の体験に基づく深々たる興味、そして「真空地帯」の挿話に於ける輕快なるユーモラス等、私の余り好かない男性マゾ特集号に於てさえ、これだけ私を魅了させる奇クの威力は恐ろしい。

(十) マゾヒストの会……本号の壓

巻であり多くの同好者に隨喜の涙を流さしたことであろう。奇書紹介と銘打たれた沼正三氏の翻訳はその経験学識傾向からいつて大いに奇クで活躍して頂きたい人である。私は特にこういう傾向に対して溶け込んでゆけるといつた性質ではないが奇クが貴重な文獻雑誌として価値を持つ為にドシ／＼今後ともこういった紹介に努力して欲しいものだ。そして全訳の方は単行本として代理部で扱えば希望者も相当ある事と思う。

(十一) 少年及び女性の切腹……これはサドとかマゾとかいつた域を脱して獨自の真面目な研究として大きな価値を持つてゐる。本誌が場当りの輕薄な態度で編集してはいないという証左ともいえる。此の外、矢作生氏より川端多奈子に対する質問の答等は他では絶対に伺ふことの出来ないものだけに有難かつた。但し女王様ごっこ、実験室にて、奴隷の安の記の三篇は殊更に本号の特集に合せたような作品、喰い足りなかつた。こういったものに打ち込む人々も多いだろう事は想像されるけれども——言安多謝——

興を呼びません。こんな文獻は非常に少いと見えて余り見受けません。

(大阪・Y・H生)

社会生活の表面に現れて来ない色々な体験の告白、倒錯のフィクション等誰もが一度は通過せねばならない或る種の感覚の世界といったものを読後まざ／＼と見せられた様な感じで今後の私の生活に多々教えられることがありました。表面に現れたものがそのまゝ、その人だけのものでピリオドが打たれてゆけば此の社会も単純な美しいものだけで済まされてゆくのでしょうか、その様なものが吹き出す所がない為に毒素となつて他の人々に迷惑が及ぶという場合が多く話題を投げかける社会悪となつて害毒を流すので、此れを未然に防ぎ昇華させることこそ此の一連の人々を助け社会を浄化させる崇高な使命であり、この難事業を勇敢に遂行される貴誌の努力に対して敬意を表しています。(滋賀・Z・K生)

ボクの責め方

(四)



宝塚二三夫

文弥節

「鳴かぬ女の味は半分」

昔から云われる通りこればかりはアバンもアプレも同じ、と人は云う。然しボクはやはりその唄い方の変化と云うか進化と云うか全く新しい味をこの身で日夜体験している中で幕のよう

で済まんが書かずに置けない。編集子よ、氣に向かねば割愛されてもよい。然し余談かも知れぬが毎月の記事を見てみると賞めて云えばユートピアとかロマンチズムと云うか、ボクに云わ

ネゴトのようなものが多いので笑止千万である。妄言謝すぞ！！

ボクがこゝに並べた五十人の生きた話、ある意味に於て貴重な体験談に対してに反対論も賛成論も御無用と存する。何故なら面白い読物とか作意的なものではないからである。特に責を伴った文彌節の集成は未だ耳にも目にもした事がないので敢えて蛇筆したのである。

責言葉のやりとりの醍醐味を知った人は必ず「ウン」と同感と愛着を身に泌みる事であろう。ボクのように性的女責に十分事足りているものにとつて

は寸鉄感と考へるが責に御不自由の仁にとつてはどうか不知よろしく諒とされよ。

目的の女を縛ろうとする時、直ちに縄を打つてしまふようなのは下手の下である。とりあえず両手を背中にねじ上げて組合わした手首を片手一杯に掴んで各人各様の肌、肉の触覚を染しむ事によつて責の醍醐味は始まるのである。

こゝまではどの女も大した声も騒ぎもない……がボクにとつては反りかえる女、うつむく女、前かゝみに大きく上半身を折り伏す女、くの字に全身をくねらす女、大して動かす早くも掴まれた背中の両手首に肉感的色気を感じてくる既にマゾ化した女、等々、然しこの位では総じて声を出して騒ぐ女は一、二をのぞいて殆んどない。次にボクの常道としてそのまゝに静寂時を与へるべく片手で後手に掴んだまゝクルリと正面に向かし今度は両手で片手首づつ、掴んでグツと抱きしめてすぐ平凡に先ず接吻、シツ、シツと慾情へのインビテーションである。この静か

な間が息抜きと女の観念時である。間もなくボクの手は女の背の手首を片手持ちかえて片手はテクニクよろしく女体を………のである。そこで女はYES、NOを不問一応さからつて来る場合、所謂ナヴァロキツス（これは女の両手を背中で組合わしたまゝ力一杯にぎり締め抱き締めつゝするキツス）で制壓して終うのである。

これで大抵の女は第一次的に参つて終うのである。一分又、五分でも十分間でもとも角、吐息を女の肩先に感じるまゝ、キツスのテクニクで………舌のテクニクよりも初めは唇の先端を至極軽快に女のそれにスリ合わせる。即ち唇をくすぐるわけである。女が止めている息をフツと熱く一息した時、ボクの最後の止め……歯のスリ合ひである。女の前歯とユツクリ、きしる様にガクガクと衝撃を与えてみなさい。これで参らぬ女はボクに云わすど色気無しかバカである。この手で行けば十六才位のもので成程度色気を感じてくる。二十四、五才にもなつた女は早くも腰を………来るもの

こで先ず文彌節の第一節が出てくるのである。

長いキツス（舌を吸い上げて、さるぐつわの代り）から口を離して、開口一番「どうだ、ぼつ／＼責めてやろうか？」その場合、ボクの五十人の相手

伊呂波仁補遺抄

（四四頁下段八行目）友人のそれにさつては（五八頁下段一四行目）近々と何も着けてない下半身を近づけます（七三頁上段八行目）激しい嘔吐にあつて、綿をはき（七五頁上段一八行目）衝動（七五頁上段一九行目）肌にはなくむしる肛門に（七五頁上段三行目）夜具の中にもぐりこ（七五頁下段七行目）激しい（一九頁上段十行目）胸へ手を入れて乳房を弄んで（同十二行目）首にかじりついて（同十三行目）男の手を中国服の裾から導き入れて、その愛撫に激しい息使いを洩らし（同十七行目）手による愛撫はも（同十八行目）坐位による交渉を（二二

〇頁中段一頁目より）男の足に重なる、と、蔽いかぶさるよう（同六行目）四本の足、から（二二頁中段六行目より）彼女に接吻した後、おもむろに掛毛布をまくり上げてもとのベットに入ります（二二頁下段八行目）遂にたまりかねた青年は、倒れかゝるようになつて彼女に接吻します（二六頁下段十五行目）あの部分に毛の無い（二九頁上段三行目）Aのあれをしやぶる、しやぶら、（同中段十八行目より）私がおしつて、なめる、なめ方、なめ方（二三頁上段十四行目）ペニスをいじり（同三行目）あれを始め（一五六頁中段十一行目）もみくちやにされず（同十三行目）歡喜の絶頂（同十五行目）絶え入るばかりのよるこひを（以上）

の殆んどが異つたセリフで喘ぐ。

（イ）秋子は「かまへんけど痛い……」と嬌笑だけで……。

（ロ）エミは「フーム責められます……」

と、眸を閉じたまゝ……。

（ハ）和子は「ハイ、ヒュー云わして……」

と、さすがオフィスワイフだけあつて同じナヴァロキツスでもZ型とボクが名付けたねじ上げられながらも十指をボクの十指にしっかりとからませて来る。尺八、69、の常習者だけあつてもう………使い出す……。

（ニ）君江は「もう責めてらつしやるじやないの」と冷静を装っているが……その息は熱くボクの顔にかゝつて来てる……。

（ホ）照子は「……………ハイ」

暫らくの沈黙と軽い喘ぎの後に「声だけで顔をそらして十指を握り締め直すのが何よりの答……」

（ヘ）正子は、だまつてにツと嬌笑

のエクボ。

（ト）鈴は、これもだまつて頬つぺたをすりよせてくるのが答。

（チ）実子は、ウンとうなすいてから顔を上げ可愛く涙ぐんだ眸。

（リ）（ヌ）のふみ、春子は「ハァー、かんにんして……」

と早くも吐息よろしく全身から力を抜いて瞳をかゝるかすだけ。

（ル）正子は

「ヒキョウよ……」と小さく抵抗しているかと思ふと「どうなとして……」となげ出す女。

（ワ）美代子は「苦しいわ、けど……」

（カ）美智子は「どうされるの？」

（ツ）ふみ子

「痛いワ、もう初めるの？」

問題の踵子に至つてはダマツテ顔をねじるようにして瞳孔を一杯に開けて十指をみごとに握り締めつゝボクをにらみつける………、その表情が無言のセリフ。以下いわゆる「文彌節」の序幕である。